

寺
ごよみ

七
月

一日 お講・音沢

永代祠堂会

一六日朝十一時 お講・中陣

昼一時 総代・白鶴会物

故者法要

一七日昼一時 寺族物故者法要

夜七時半 お初夜

一八日昼一時 戦没者追弔法要

一九日昼一時 満座内陣法名法要

講話 高務哲量師

☆毎日おとこの用意をしておま
ちしています。

二〇日 連研 於光せん寺

二七日 本山御助成会

午前十時・午後一時半

講師 若林眞人師

寺報

善 巧

発行

〒 938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 497
白雪山 善巧寺
TEL・FAX (0765) 65-0055
TEL オテラザ 65-0975

七月十六日〜十九日

永代祠堂会

講話 高務哲量師



七月は祠堂会の月です。善巧寺では、七月十六日から十九日迄の四日間、本堂にて勤修されます。祠堂会はお東もお西も、日本中の浄土真宗の寺々で、一斉に営まれる大切な行事です。門徒全体の法事がこの期間賑々しくつとまります。住職

は正装第一種（色衣・五条・袴）に威儀を正し、毎日登高座を致します。祠堂会の差定は三奉請、表白、三部経です。三部経は四日の間に全巻つとめられます。お経は大藏経といつて大変長く沢山ありますが、私達浄土真宗では三部経だけあげる事になっています。三部経とは、佛説無量寿経、佛説阿彌陀經の事を言います。この事について少し述べてみましょう。佛説無量寿経は上下に別れていますが、これを大經と申しています。觀無量寿経は觀經と言い、阿彌陀經は小經といひます。經典を誦誦することとは、彌陀信仰による歡喜自然の行業であり、佛陀崇敬の最高の儀礼であつて、祠堂会の間、本堂で誦誦される三部経の音声は、参詣の皆さんに大きな喜び

祠堂会

みなでおまいりしましょう

を与えてくれることでしょう。ここに、佛説阿彌陀經には何が書いてあるか、直接お経の原文に当たってみましょう。「姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯」三藏法師が印度の言葉から中国の言葉に訳したものです。「從是西方・

過十萬億佛土・有世界・名曰極樂・其土有佛・號阿彌陀・今現在說法」——この文をわかり易く述べると次の様になります。ここから西の方十萬億佛土へ行くと、一つの世界があります。この世界を極樂といつて、そこには佛様がひとりいらつしやいます。その佛様を阿彌陀様といひます。極樂にはたのしみはあるが、苦しみは一切ありません。阿彌陀經にはこの極樂・お浄土・阿彌陀様のお莊嚴がかかれてあります。祠堂会は、門徒の皆様とこの有難い三部経をききなから、お浄土の有難さ、阿彌陀様の尊嚴を身に体して味わう、又とない機会です。私達はいももつと三部経に親しみたいものです。どうか、門徒の方々一人残らず、この年に一度の祠堂会にお参り下さい。

住職 雪山 俊之

平

花

利井興弘師講演録

(一味六三五号より)



洗心院釈興弘法師遺影

一番大事な角目

今日は、たくさんの質問が来ている。

その中の一つに、「利井先生が生きていらつしやる間に、お同行ともども、じっくりお聞かせにあずかれればと思います」というて、『御和讃』を書きも書いたたり、なんぼでも書いてある。これを私に全部お話してくれいうたら、少なくとも三年はかかる。(一)同笑 かかる、かかる。

そこで、蓮如上人は、どういうことを言うてはるかというたら、まず、お同行は角目を聴け」と書いてある。角目いうたら、一つの机に四つの角目があるように、一番大事な角目を聴かなあかんぞ、ということですよ。一つがわかれば全体がわかるようになっておるんです。そこで、今日は特に一番大事なことというたら、どういいうわかれかということをお話してゆきたいと思います。ご開山が

番大事に味わわれたのは、なんというても第十八願のおいわれでございます。

そやけど、「利井先生、あんたが生きていなさる間に」というけど、いつまで生きているかわかりませんよ。と申しますのは、二十一日に、花と緑の博覧会のスマトラ館に、スマトラの人達がやってきて何か見せてくれる。それで、私たち、兵隊でスマトラに行つておりました連中が、集まって、「みんなで見に行こうじゃないか」ということになったんです。

ここで、心配してくれたのがお医者さんです。何しろ、みんな八十前後の男ですから。そこで、二十日に、みんなでお医者さんとこへ行つて血圧計つてもうて、「あんたは危ない、あんたは大丈夫や」という証明をしてもらわなあかん。それは、有り難いことですけども、カンカン照りの暑さのなか、秋とはいってもそれは暦(こよみ)の上だけののこと。実際は、今日のように暑い日でございます。だから、もしかのことがあつて、いつべん、ウーンと、うなつたらしまいでございませう。さあ、そこで「利井先生、行きてる間に」ということやつたら、大事なのは角目です。

御開山が一番大事に味わわれていたのは第十八願の中でも特に「信楽」です。「信楽」とは、一言でいうたら、疑い晴れて心からよろこぶということでございます。

いつも、申しますとおり、ここら前を見ますと、あの建物の横に立つておるのは、あれは、シュロウの木でございます。で、私が、「あれはシュロウの木や」というたて、みなさんが、「ああ、あれはシュロウの木や」と頷くのが、これが、「信」でございます。

これに対して、「楽」はよろこびでございます。我となえ、我きく南無阿弥陀仏ですけれども、噛みしめたならば、よろこばずにはおれん味が入つておる。親鸞聖人のお聖教の上で申しますと、『愚禿鈔』にも書いてございませう通り、「信は疑に對す」と疑いに対するのが信でございます。

そこで、いろいろと考えてみますと、私たちは子供の時から「何で?」「何で?」と疑いを持つのが我々の特徴です。

ですから、御開山も法然上人の御許へゆかれるまでは、「何で?」の疑いをもちつづけられたのでございませう。

それが、法然上人の御許に行

かれて、「疑いはみんな取つてあるから心配するな」と聞かれる訳でございます。

もつと、わかりやすう言うたら、親が子供に心配を残すようなことするかい、ということでございます。

あなたがたは、仏様を、軽々、考えておるけれども、仏様の智慧はどんなお智慧か、いうたならば、極上でございます。その一番すぐれたところの智慧の持ち主が、何を見抜かれたかというたならば、「もしかしたら、ひよつとしたら」という気持ちで湧いてくるのが、おまえの本性じゃ。そやけど「あれか、これか」とはからうことのないよう、疑いはみんな取つてあるから心配するな」というおいわれがわかつたならば、我々には、よろこびしか残らんじやないか、そうだから、あんたがたがね、「もしか、ひよつと」という気持ちで湧いてくるならば、それは凡夫の自性。その疑いを全部取り除いて、間違ひなく、弥陀同体の悟りを開かず、というのが仏様の南無阿弥陀仏。これが角目。ウーン、ええかな。それを、角目を聴かずに、あんたがたは「利井先生、いつまで生きてるかわからんから」と

いうような、つまらんことは言わずに、何よりもわからんことを聞かにならん。

けれども、我々の世界は、しゃべってる私も無常。聞いているあなたもたも無常。そうであるならばこそ、我々は、「必ず」ということが出来る。それは何かというたら、必得往生。六字釈の一番最後に、いわゆる必得往生。「この義をもつての故に必ず往生を得る」と書いてある。ええかな。この「必ず」に、三つの釈がある。

「行巻」では(聖典一七〇頁、「必ず」ということを、「審なり、然なり、分極なり」と御開山は味わっておられる。

ええかね。一つには、「審(つまびらか)なり」。つまびらかというんだから、わかりやすくいうたら審議。審査。阿弥陀様は「おまえを徹底的に調べぬいた」とおっしゃる。調べぬいたということがあるから「必ず」が言える。

それから、次に、「然(しかしむと)なり」。このおいわれは、称えるのは、あなたに違いないけれども、然(し)かしむる」とは言葉かえていうたら、称えさせてござるのは仏様であるぞということ。お念仏は、あなたが称えるには違いないけれ

ども、それは阿弥陀如来様の胸から届いた南無阿弥陀仏。だから、然なり。

それから最後に、「分極(わがちきむる)なり」。分ち極むなりとは言葉かえていうたら、とことん分析した、とことん極限まで、最後の最後まで見届けたということ。

こういうことやから、「必ず往生することを得る」、あなたがたに必ずお悟りを開かせるという、蓮如上人のおっしゃるいわゆる角目を聴かにならん。

そこで今、話した角目を考えてみるならば、成程、こういう仕掛けがしてあるならば、心配いらんじやった、と喜ぶ。これが信樂のおいわれでございます。:

この講演は故利井興弘先生が、平成二年八月十九日に専精会広支部にて講演をされたものの一部であります。利井先生最後のおはなしをここに掲載して、先生を偲ばせていただきます。

(利井興弘師が還浄されて、この八月で三年になります。師は献体を希望しておられました。このほどようやくご遺体がお帰りになると聞き、師の遺徳を偲んで掲載いたしました。)

俊隆二十才になりました

―称名寺で御導師をつつがなく―



さる六月五、六日、获生称名寺で、前三住職等法要、並びに寺基移転四百年、門信徒会館落成慶讃法要が前門様ご親修にて営まれました。称名寺住職たつ

てのご依頼で、住職代理として俊隆が一日目の御導師を勤めることになりましたが、十九才の若輩にて周囲の心配もひとしお

でした。が、先輩の皆さんのお力添えもあって、終始落着いて無事にお役を果たすことができました。

「さすが雪ん子出身、声も朗朗と大きく立派なもんじゃ。」「善巧寺も又ええ若はんができた。涙がでた、よかったよかった。」「お勤めも本山の勤式通り仲々正確にできた。」「二、三点注意すれば、あとは言うことな

し。初心忘れぬよう精進して下さい。」

多くの方々から暖かい励ましの声をうけて、華やかなデビューをさせていただきました。

「ほめられてわれ賢いと思うなよ。まことにほめる人の少し」という利井興隆夫人の言葉を戒めとしながら、今後ますます研鑽の日々を進むことでありましよう。どうぞよろしくお導き下さい。

その俊隆は、六月十三日、二十才の誕生日を迎えました。隆弘亡きあと、こうして喜びの芽が少しづつ育ちつつあります。うれしいこと、ありがたいことです。



「仏典物語」「念仏物語」脚本家 多地さん降板

昭和六十一年四月、雪山隆弘企画によるビデオアニメ仏典物語「ウバーリの出家」が本願寺から発売されました。これは、誰にでもわかり易く美しく美しくと考えられたお経のアニメーションドラマ化です。仏典物語は「お釈迦さまの道」まで全十二巻が五年間にわたって出版されました。その後、新シリーズ「念仏物語」となって今回の「歎異抄」が三作目ですが、これまでの十五巻の脚本を全て手がけてこられた多地映一さんがお身体の都合により今回で降板されることになりました。種々の制約をうけながらの執筆は、さぞお体にこたえたことでしょう。しかしこのお仕事は、本山の伝道教化の一環として、大きなすばらしい功績を残されたことであります。今は病をおして生涯の代表作に取り組んでいらっしゃると思います。

多地さん、私達、あなたにお会いできて本当によかった。ありがとうございます。

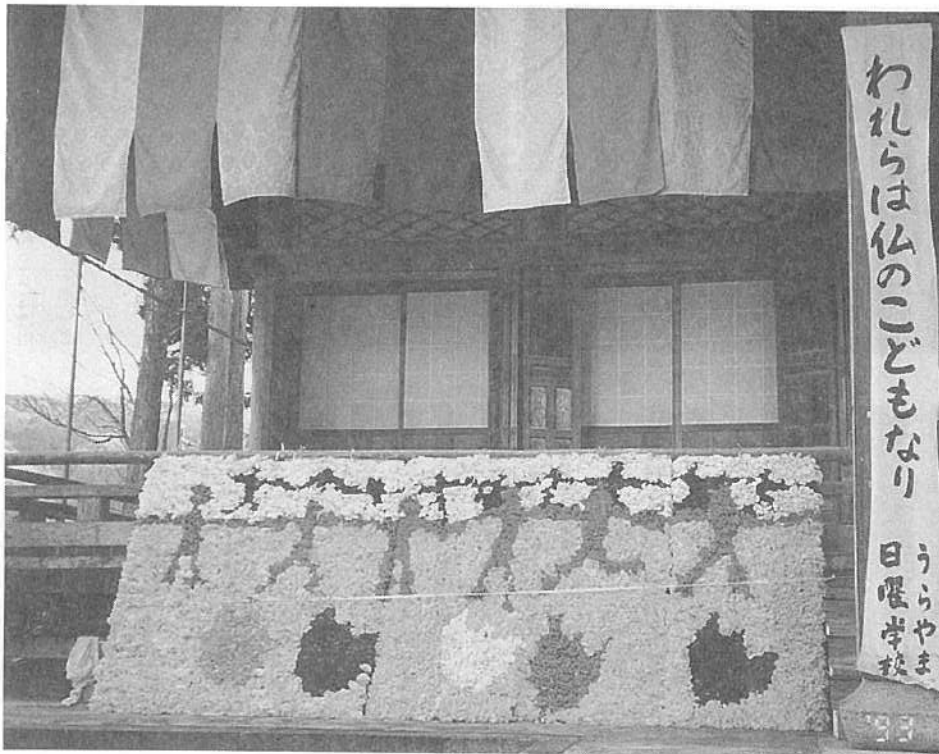


花の誕生会

4.25

今年も咲いた

いのちの花



初参式を受けられた

仏の子たち

野崎隼人くん 亨 夫妻

岩崎加奈ちゃん 智美 夫妻

菊池ゆうきちゃん 幸正 夫妻

古里咲輝ちゃん 博人 夫妻

本波寛崇くん 睦 夫妻

浦滝大裕くん 幸博 夫妻

おめでとうございます

ちいさないのちすこやかに



今年もにぎやか満員御礼

落語家さんの本家がえり

6.15



16年ぶりに新調した横断幕



大空へねがってまぶしー
お寺座のスタッフたち



落語会で本堂一転 笑いの渦

宇奈月の善巧寺

お寺の本堂を会場にしたユニークな落語会「野休み落語会」



「お寺から文化を発信しよう」と十五年前から始まった恒例のイベントで、好評を得ている。この日も県内外から大勢の演芸ファンが詰め掛け、本堂はぎっしり満員。出演者の巧みな話術にどっと沸いた。プロデュ

「お寺から文化を発信しよう」と十五年前から始まった恒例のイベントで、好評を得ている。この日も県内外から大勢の演芸ファンが詰め掛け、本堂はぎっしり満員。出演者の巧みな話術にどっと沸いた。プロデュ

落語会」が十五日夜、宇奈月町浦山の善巧寺で開かれた。お寺から文化を発信しよう」と十五年前から始まった恒例のイベントで、好評を得ている。この日も県内外から大勢の演芸ファンが詰め掛け、本堂はぎっしり満員。出演者の巧みな話術にどっと沸いた。プロデュ

県内外から大勢の落語ファンが詰め掛けた「野休み落語会」



北日本新聞六月十七日号より

永六輔 八十八
お寺座のスタッフたち



扇橋師匠と「お寺座」のスタッフたち

よこしま正永寺さん

今年も大阪の正永寺さんから仏婦の皆さんが大型バスを仕立てて落語会にお越し下さいました。富山TVの中継にも生出演していただきましたが、これまでも何回となくご来院下さっています。そのご熱意に深い感動を覚えます。ようこそようこそ。



清掃奉仕ありがとうございました。



さる六月八日、お寺からお願いに應えてたくさんの方々清掃奉仕にご協力下さいました。中山慶太郎、中村忠夫、川瀬久義、岩上巳之助、野島重一、沢田最一、沢田修、橋沢重盛、鬼原勝次、菊地れい、本波ときあ、大藪富美子、河村としい、田中まつゑ子、山内すい子、本波すみ子、菊地二美子、河村君子、田中球江(敬称略)以上の皆さんのおかげで、境内、裏庭、寺の周辺、空華殿等がこかこか、びかびかになりました。いつもながらありがたいことであります。次回には、別の地区の皆さんのご協力もよろしくおねがいいたします。

雪ん子劇団、家族も一緒にテレビ出演

読売テ



レビ「いつみても波瀾万丈」角川春樹編でロケ出演依頼があり総勢七名が協力しました。この春卒業した深井沢拓也君、沢田真理子ちゃんとおじいちゃん、幸雄さん、川上つかささんのお母さん



恵理さんと弟の圭哉君。中晴香ちゃん、弟の隆理君。そして育てる会元会長の中山慶一さんの皆さん。合計十分足らずの出演時間でしたが、各々時間をかけてのロケ撮影で、皆さんしばし役者気分、面白い体験をしてもらいました。



夢を語る会もテレビに

上記七人のテレビ出演で騒いでいましたら、その富山テレビが今度は530の生放送で中継車でのりつけての取材に。落語のはじまる前の雰囲気をとということで、夢を語る会の大番頭、高島有哲さんがインタビューをうけました。この番組を見て落語にかけつけた方も数人あったとか。高島さん、大成功。

育てる会が「お寺座」組み直し落語会や雪ん子の公演で大活躍の「お寺座」の舞台ですが、五年もたちますと、基礎の角材が曲がってきて少々危なくなっていました。そこで、昨年度の夢を育てる会会長の河村四郎さんのお骨折りで、会員で大工さんの佐々木吉和さん、炭田健一さんの協力を得て、この度、危険のないコンパネの舞台ができました。おかげさまであります。



行信だより 俊隆



私は今二十年前に父が学んだ
行信仏教学院の寮にいます。

五月二十二日から五日間、
「専精舎」という、こちらでは

大変重要かつ大きな行事が行わ
れました。専精舎では勤行と法
話が主となるわけですが、ここ
には他の法座とは一味違った雰
囲気がありました。何が違うの
かというと、御講師がすばらし
いのはもちろん、御聴聞に來ら
れている方々がこれもまたすば
らしい。法座の一つ一つに喜び
の念仏、感謝の念仏の渦なので
す。そんな中に私も御聴聞させ
ていただけたのは、とても貴重
な体験となりました。煩惱だら

六月十三日、今日は入院して
三十一日目。ここは黒部市民病
院脳神経外科第一病棟二階二〇
六号室である。手術はうまくいっ
て、主治医からは内科的には経
過良好と言われている。私の方
は全く医学に疎いものだから硬
膜下血腫の手術と聞かされても、
どこがどうなっているのかさっ
ぱり分からない。要するに主治
医にすべてお任せである。聞く
所によると、この病院の脳外科
のスタッフは仲々の権威である
との事で、こちらとしては安心
してお委せている次第だ。医
学の進歩は著しくこの病院の施
設が万全であることは、素人で

ある私の目にもうかがわれる。
病院の三度の食事は、七時半、
十二時、六時ときまわっていて、
入院以来この病院食のお世話に
なっている。毎朝
七時を過ぎると廊
下がざわざわし始
め、まずお茶を廊
下まで取りに行く。
何人もの食事が用
意された配膳車が
音をたててんだん
んこちらにやって
くる。患者の一人である私は毎
食少しも残さずに食べるように
つとめている。病院のベッドに
居ると仲々忙しい。ドクターの



住職日記

回診、ナースの血圧、脈拍の測
定。心臓の薬の貼替えなど。又、
CTスキャンをとりに車椅子で
出かけるときもある。午後にな
ると家内の押す車椅子
でリハビリセンターま
で出向き、色々なリハ
ビリをしてくる。この
新しいセンターは大変
広々として、いろん
な機具設備が揃って
いて仲々快適だ。私の係り
のS先生は大変やさし
く、私はここで歩行練習、マッ
トの上での手足の運動、階段の
上り下りなどを、S先生と一対
一で指導をうける。歩くという

もつとも単純な運動さえ、現在
の私には甚だむずかしいことだ。
併し私より重症の患者が沢山居
て、それぞれに一生懸命に努力
をしている姿を見ると頭が下が
る。私などまだ軽症の方である。
暫らく病室からこへ通う日が
続くことになると思う。病院も
施設その他の点に於いても暗い
感じが殆どなく過ごし易い。後
一週間もすれば退院出来るもよ
うだ。

一七日 釋隆弘四週忌祥月命日・
十七夜お経会
☆九月はお講はありません

寺
こよみ

九月

二六日 雪ん子劇団朝日町アス
カ・アゼリアホール公演
二八日夜七時半 雪ん子劇団夏
の定期公演

寺
こよみ

八月

一日 お講・石田、中新、生地
三日 雪ん子劇団宇奈月国際
会館オープン記念公演

雪ん子劇団第七期生の田中華
美さんが劇団フロンティアのお
芝居に出演しました。いかにも
若く、アマチュアらしい作品で
したが、熱演の華ちゃんに客席
から声援を送りました。



田中華美さん
アマ劇団に



龍谷だより 教隆

ここ深草の下宿ぐらしも三ヶ
月になります。大学の校舎まで
自転車三分、徒歩七分です。
近況を報告します。仏教に関
する講義は週十回、宗教史、教
化法、宗門法規、真宗入門、真
宗基礎演習ゼミなどがあります。
五月二十一日、降誕生会が勤
まりました。円山公園で勤行と
讃歌のセレモニーがあり、その
あと、三条の加茂川のほとりの
野外劇場まで行列です。四千人
もの大行列で、先頭がどこにい
るかもわかりませんでした。

祠堂会のご案内

七月十六〜十九日

今年も七月十六日から四日間
永代祠堂会がつとまります。こ
の法座は、お寺を護る門徒の皆



さん全員のご先祖のご法事です。
毎日特別法要がつとまりますの
で、お誘い合わせ、必ずおまい
り下さい。尚案内もれの方がご
ざいましたら、事務局までお申
しつけくださいますように。
ご講師は、もうおなじみになり
ました福井の高務哲昌先生です。
明解で暖かいご法話をいただけ
ることでしょう。

総代会・白鶴会物故者法要

七月十六日午後一時。亡くな
られた総代さんのご家族の方と
現総代さん。白鶴会物故者のご
家族と現白鶴会会員の方は必ず
お参り下さいませ。

寺族物故者法要 七月十七日
午後一時。善巧寺、法輪寺、照
行寺の寺族物故者の法要をつと
めます。午後七時半からお初夜
お経会がありますのでおさそい
合わせおこしください。

戦没者追用法要 七月十八日
午後一時、門信徒の戦没者ご遺
族の方、おさそい合わせお参り
ください。

内陣法名法要 七月十九日午
後一時。例年通り、特別懇志志納
者の内陣での焼香があります。
毎日おとぎの準備をしており
ます。ごゆつくりお参り下さい。

清掃準備おねがい

七月十五日に

祠堂会は、毎年門徒さんの半
数以上がお参りになる大きな法
要です。内外ともに美しくお荘
厳してみなさんをおまちするの
ですが、前日の十五日に本堂の
お荘厳、内外のおそうじ、準備
などをいたします。是非是非ご
協力をおねがいいたします。六
頁にお名前をあげた方々以外の
地区の方、特にご参加をおねが
いします。

「とやま物語」

見てください

七月十七日夕六時半

毎週日曜日KNBラジオ「岡
Pのサンデーティータム」、
学友能登弓美子さんのマリンバ
コンサート、ナレーター、デフ
パペットシアターひとみの宇奈
月公演実行委員、手話サークル
トロッコの会等々、善巧寺以外
でも大活躍の有花は「この浦山
で多勢の友人とこんなにいる
る活動できる」と予想外だった」
と云いますが、この活躍が富山
テレビの「とやま物語」で紹介
されとか。密着取材が続いて
いましたが、放送は七月十七日
夕方六時半です。ごらんくださ
い。

本山御助成会

七月二十七日午前十時
午後一時半

法話 若林眞人師

夏の本山ご助成会は、七月二
十七日に午前午後とつとまりま
す。ご講師は、本願寺布教使、
大阪光昭寺住職若林眞人師です。
若林先生は行信教校のご出身で
釈隆弘法師とは机を並べて学ば
れたお仲間です。楽しみにお待
ち致しましょう。



今年も売れっ子、雪ん子劇団

今年度最初の公演は、八尾町
商工会婦人部三十周年記念に招
かれて曳山会館での公演でした。
団員の1/3以上が不参加という非

常事態でしたが、何とか無事に
終え、主催者にも喜んでもらい
ました。さすが本番に強い雪ん
子だと再認識しました。八月九
月の予定は次の通りです。是非
応援してください。
八月三日 宇奈月国際会館
八月八日 井口村
八月二六日 朝日町アゼリアホール
八月二八日夜 夏の定期公演
九月十一、十二日は石川県白山
青少年の家で、金沢の劇団さく
らんぼとの交歓会館を行います。
入ったばかりの一年生もはりきっ
ています。

合 掌

若はんが植えていかれたあじ
さいが、えらい増えたねえー
七色の紫陽花は思い出深い花に
なりました。雨の晴れ間に写真
を撮っていましたら、白い蝶が
しきりに飛び交っていました。

五月十四日黒部市民病院脳神
経外科で手術をした住職は六月
二十一日退院、上法事やお講に
も出勤して喜んでいました。そ
ろそろお見舞いのお礼をと考え
ておりました矢先、七月三日に
脳梗塞で再入院ということにな
りました。人間の日々無常を痛
感させられます。この号の原稿
を十日余の書齋暮しの中で書き
上げられたのがせめてもの慰め
です。

名古屋・千葉・奈良教区、築
地本願寺、大谷本願など多った
いないご縁をいただいています
が、夫の先輩や友人との出会
いが嬉しい限りです。ただ前に
進むことが多く、お聴聞、勉強
の時間の少ないことが気掛りで
す。

